

THE ANNUAL JAPANESE SPEECH CONTEST 2012

APRIL 2012

SUMMARY OF THE EVENT

The 6th annual Embassy of Japan's Japanese Language Speech Contest was held 24 March at Ullevål Kino in Oslo. 13 contestants were divided in two groups: Group A (Beginners) and Group B (Intermediate/Advanced). They competed for a travel fund of NOK 10.000 to Japan, generously provided by Scandinavia-Japan Sasakawa Foundation. Pax Forlag provided hardback copies of Murakami Haruki's "1Q84" (Book 1-3) to the second prize winners, and Scanbox gave the contestants finishing in third place a DVD of "My Neighbours the Yamada's" from Studio Ghibli.

This year the speech contest attracted the interest of 107 spectators on a splendid Saturday afternoon.

The speech contest has become an enjoyable tradition, and we at the Embassy are delighted to see how popular the event is with the Japanese language students.

If any of our readers are considering participating in the contest next year, we sincerely hope you will sign up and join the fun. Welcome back next year!



Contestants and judges

Prize	Group A	Group B
1st	Ms. Ellen Haugan	Mr. Geir S. Larsen
2nd	Mr. Espen Nielsen	Mr. Changbog Lee
3rd	Ms. Marita Haugland	Mr. Jon Oshaug
Special	Mr. Martin Fausa	Ms. Iselin Wood

IMAGES OF JAPAN - SYMPOSIUM



Monday 5 March the Embassy held a very interesting symposium on Japan at Litteraturhuset, Oslo.

Prof. Reiko Abe Auestad led the event, and moderated a Q&A session with a panel consisting of Prof. Terje Grønning, Mr. Jonas Kure Buer, Mr. Magne Tørring and Mr. Hans Ivar Stordal.

As many as 120 spectators were able to find a place in the lecture hall, and the enthusiastic crowd were eager to challenge the panel during the Q&A session.

We are delighted that so many found this event interesting.

Group A winner - Ms. Ellen Haugan



皆さん、こんにちは、エレン・ハウガンと申します。今日は株式会社スタジオジブリについて話したいと思います。

皆さんがたぶん知っていると思いますが、スタジオジブリは有名な日本のアニメーション企業であります。この企業が作った映像作品は日本だけではなく、世界中のたくさんの人たちに知られています。

スタジオジブリを設立したのが宮崎駿と高畑勲でした。映画「風の谷のナウシカ」の成功につづいて、1985年6月15日に株式会社としてスタジオジブリがスタートしました。そのときからスタジオジブリがいろんな有名な作品を作成しました、たとえば「となりのトトロ」、「もののけ姫」、「千と千尋の神隠し」、そして最新の「借りぐらしのアリエッティ」。2002年に「千と千尋の神隠し」がアカデミー賞をじゅしょうしました。これはまさにジブリが世界に認められたしゅんかんでもありました。三鷹の森ジブリ美術館というところもあります。毎年たくさんのジブリファンがここをおとずれます。

ではどうしてこの企業が作った作品は人をひきつけるのでしょうか？まず、宮崎監督は自身の映画にあるテーマをよく使います。たとえば自然保護と人間と自然との共生、平和主義、そして環境主義がテーマとしてよく描かれています。さらに、宮崎駿はフェミニストと呼ばれたことがあります。それで、そのような彼の人間性がよく映画に描かれています。ほとんどの映画に強い女の子が主要な役割を持っています。そして何よりも愛は大切です。宮崎監督が一番届けたいメッセージはたぶんこれです：世界、そして自然を守ることはとても大切です。それにまた、忙しい現代人には忘れられているきょうしゅうのきもちにたぶんだれもがかんれんすると思います。

私はスタジオジブリの作品が大好きです。十歳の時、「千と千尋の神隠し」を見て、とても感動しました。今見ても感動する映画です。そのとき私はスタジオジブリの大ファンになりました。私にとって、スタジオジブリの作品はとても感動的です。心をあたたまらし、ときどき泣かせることもあるし、すごくいいと思います。ただのファンとしてこれしかいえないけど、皆さんが少しだけスタジオジブリの作品を見たら私はうれしいです。そして日本の子供たちだけではなく、世界中の子供たちもその作品を見て感動するといいなと思います。

Group B winner - Mr. Geir S. Larsen



初めまして。わたくしはゲイルと申します。今日はみなさんに日系ブラジル人の就学問題について話したいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

日本のニュースなどでは「日系ブラジル人」について取り上げられる際に、同時に「就学問題」という言葉をよく耳にします。この就学問題というのは就学年齢に達している日系ブラジル人が学校に通っていない状態を指しています。

では、これはなぜ起こっているのでしょうか？

一つの説では日系ブラジル人の不就学はダブル・リミテッドとの関係があるといわれています。

ダブル・リミテッドというのは母語と二言語目の両方において自分の年齢に相応しいレベルに達していない者を指しています。

日系ブラジル人の子供の間ではよくある問題です。

たとえば、ある日系ブラジル人が5歳の時に日本に引越し、そして日本語が不自由に話せないせいで、日本の教育についていけなくなります。

その結果、日常会話ならポルトガル語でも日本語でもある程度話せますが、自分の気持ちがちゃんと言い表せない、そして自分の母語ポルトガル語でも考える力を身につけることができなくなるのです。

この状態を治すには実は母語教育が一番必要だとされています。

ただし、日本にあるブラジル人学校では月謝が3万円から4万円かかると、今の不況では自分の子供をそういった学校に通わせられない両親がほとんどでしょう。ですから結局日本人向けの義務教育の学校にただで通わせることになるのです。それで、ブラジル人の子供の間では、このダブル・リミテッドが大きな問題になっているのです。

幸いなことに、「虹の架け橋教室」という文部科学省の支援事業が最近、各地で始まっています。虹の架け橋教室では子供たちは日本語とポルトガル語、そして算数や音楽などを学びます。日系ブラジル人が多くすんでいる浜松市には「ムンド・デ・アレグリア」という『虹の架け橋教室』があります。その校長、まつもと・まさみさんは2010年に朝日新聞でこう述べていました。

「まず子どもにポルトガル語で考える力を身につかせ、次に日本語を教える手法でカリキュラムを作りました。日本の学校に行くと、習熟の遅い児童生徒のために設けている授業についていけない程度まで日本語のレベルを上げていくことを目指しています」と。

就学問題が解決に至ったわけではありませんが、「虹の架け橋教室」のような事業がもっと広まれば日本はいい方向にすこしずつ向かえるとわたくしは思っています。

しかし、このような問題は日本に限った問題では決してありません。

我々ノルウェー人も、ノルウェーにおける外国人の母語教育をもう一度見直すべきではないかと思っています。

そして、このスピーチがその見直しへの一歩となれば嬉しく思います。

ご清聴ありがとうございました。

Are you unable to read these texts?

Do something about it

- learn Japanese with Erin!

<https://www.erin.ne.jp/en/>

PLEASE NOTE OUR
NEW EMAIL
ADDRESS

EMBASSY OF JAPAN
IN NORWAY

Wergelandsveien 15, 0244 Oslo
TEL: 22 99 16 00
FAX: 22 44 25 05
EMAIL: info@os.mofa.go.jp
WEB: www.no.emb-japan.go.jp
Facebook: www.facebook.com/japansambassade